



むとう かもん
武藤 嘉門
(明治三年生まれ)

事績

岐阜県山県郡千疋村(関市千疋)辻丈助の二男として生れ、幼少の頃から英明で明治十八年岐阜県岐阜尋常中学校に学び、同二十二年同校を卒業するとともに志を立てて東上し、東京法学院において英法を修め、同二十五年同校を修業して帰郷後、稲葉郡鷓沼町武藤家の養子となり、家業を継いで酒造業を経営した。

その後、郷党同志の推薦により政治に志し、明治三十六年稲葉郡会議員となり、同四十年県会議員に当選し、以後大正七年までその職にあったが、更に同年衆議院議員に当選し、昭和七年に至るまで国政に参与すること三期におよんだ。

政治に力を注ぐ傍ら深く心を実業に傾け、自営する家業のほか、明治二十六年以降十二年間岐阜米穀取引所理事長として疲弊をきわめた同所の機能を復活する重責を果し、その経験をもって昭和十四年岐阜米穀商組合長に推され、更に戦時統制の強化により、岐阜県食糧営団が発足するとともに、その理事長に就任して食糧統制下、県内食糧事情改善のために多大の努力を傾注し、昭和二十一年退職した。

一方大正末期県下に水力発電事業のぼっ興を見るや、飛騨川水力電気の開発に志し、日本電力株式会社の創立に参画し、昭和六年同社の監査役となり、次いで取締役に加わって会社の発展に尽力し、昭和二十六年電力業界の統合により退職した。又地方鉄道の開拓についても並々ならぬ熱意を有し、昭和初期の不況時に養老電鉄、伊勢電鉄の取締役として活躍し、参宮急行への合併後も取締役を勤め、昭和十七年近畿日本鉄道となるにおよんで職を辞した。

その他昭和六年から同十七年まで揖斐川電気工業株式会社監査役、同十一年から同十七年まで岐阜合同運送株式会社社長、同十三年から同十六年まで岐阜商工会議所会頭にそれぞれ就任し、更に同十七年には岐阜合同新聞社長に就任するなど経済界の発展のために数々の業績を残した。

昭和二十二年新地方自治制度の施行に伴い、県民の信任を得て、岐阜県知事に公選されたが終戦後の混乱した世相の中であってよく県政の大綱を誤らず、高齢をもちとわず日夜職務に精励したため、朝野の信望はいよいよ厚く、昭和三十三年まで連続三期の長きにわたり、知事の要職にあって、ひたすら県政の伸張に力を尽くした。この間知事としての給料を辞退して清廉の範を示し、常に健全財政を維持しつつ事業の均衡を図り、県の政治及び産業全般にわたって数多の貢献をなし、県民福祉の増進のために多くの業務を残した。中でも土木事業におい

て全国に先がけて永久橋の整備に着手し、多大の成果を収めたこと及び山林事業において林務部を新設して、国土緑化、治山治水に意を用い、昭和三十二年四月には、天皇、皇后両陛下の行幸啓を仰いで感激のうちに植樹行事を挙行了した。

昭和三十三年十月任期満了により十二年間に及ぶ知事の重職を退いて後進に途を譲ったが、これに先だち、多年にわたる地方自治並びに地方産業の振興に尽くした功により藍綬褒章を賜わってその善行を表彰せられた。